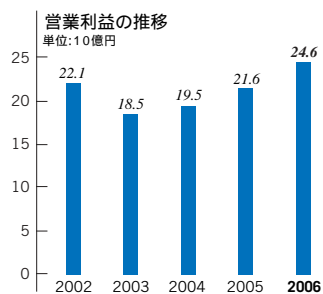
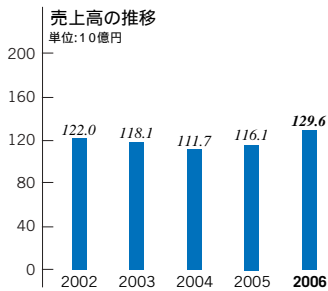
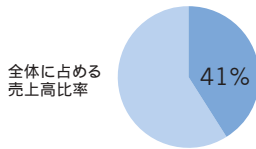


## セグメント情報

### 事業の種類別業績

#### 機械加工品事業



#### 主要製品

ベアリング及びベアリング関連製品  
ミニチュア・ボールベアリング  
小径ボールベアリング  
シャフト一体型ボールベアリング  
ロッドエンドベアリング  
スフェリカルベアリング  
ローラーベアリング  
スリーブベアリング  
ピボットアッセンブリー  
テープガイド

その他機械加工品  
航空機用・自動車用ネジ類  
特殊機器  
電磁クラッチ / 電磁ブレーキ

機械加工品事業の売上高は129,595百万円と、前期比13,490百万円(11.6%)の増加となりました。営業利益は24,556百万円と、前期比2,984百万円(13.8%)の増加となり、売上高営業利益率(売上高は外部顧客に対する売上高)は18.9%と、前期より0.3ポイント上昇しました。好調な需要環境を背景に主要製品の販売が伸長し、販売単価が安定して推移しました。主力のミニチュア・小径ボールベアリング事業は、情報通信機器や自動車向けに販売が増加し、高水準の売上と利益が続きました。ピボットアッセンブリーはPCやデジタル家電等に需要が拡大しているHDD向けに売上高が大きく増加し、販売価格の是正も実施しました。加えて、生産効率向上施策の成果により、利益が大幅に改善しました。ロッドエンド&スフェリカルベアリングも主要市場である航空機業界からの需要が旺盛で、売上高と利益が増加しました。

#### 主要製品群、市場、市場での位置付け

製品群と主要製品	主要市場	当社の世界市場占有率(注)
ベアリング及びベアリング関連製品		
ミニチュア・小径ボールベアリング	各種小型モーター、家電、情報通信機器、自動車、産業機械	60%
ロッドエンド&スフェリカルベアリング	航空機	50%
ピボットアッセンブリー	HDD	70%
その他機械加工品		
特殊機器、ネジ	航空機、自動車、産業機械	

注：市場占有率は数量ベース。ロッドエンド&スフェリカルベアリングのみ金額ベース。当社で独自に入手した情報及び市場調査会社の情報を基に、当社が対象とする市場における占有率を推定。

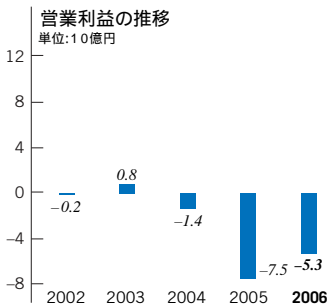
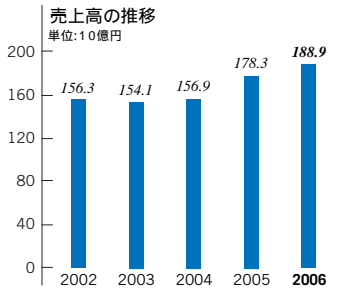
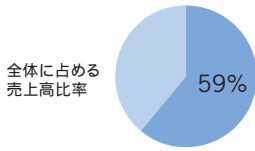
#### 事業詳細

ボールベアリング事業では、ピボットアッセンブリーやデジタル製品向けの需要拡大に伴うミニチュアサイズの市場の広がりに対応し、増産を実施しています。歩留まり向上と合理化による原価低減を継続して行っています。また、製造の原点への回帰をテーマとして事業の強化をはかりながら、基礎技術開発部門を設置して技術開発の強化もはかっています。

ロッドエンド&スフェリカルベアリング事業では、年率2桁増が続く航空機需要に対応し、軽井沢、米国、英国の3拠点で生産能力の増強を実施すると同時に、低コスト体制の構築と生産能力の増強を目的として、タイの前工程生産の活用をさらに進めています。顧客の新機種開発に併せて、製品開発にも注力しています。

ピボットアッセンブリー事業では、今後も年率2桁増が続くと予想されるHDD市場で70%のシェアを維持することを方針としています。生産能力の増強と、部品内製化、歩留まり向上、及び設計標準化による継続的な原価低減をはかっています。

## 電子機器事業



電子機器事業の売上高は188,851百万円と、前期比10,534百万円(5.9%)の増加となりました。営業損失は5,287百万円と、前期比2,202百万円の改善となり、売上高営業利益率(売上高は外部顧客に対する売上高)はマイナス2.8%と前期より1.4ポイント改善しました。一部の事業で量より利益を追求する方針へ切り替えた影響がありましたが、好調な事業環境に加え、円安による増加要因もあり、売上高は増加しました。なかでも液晶用LEDバックライトを中心とするライティングデバイス事業では、携帯電話市場の拡大と当社製品採用機種数の増加により、売上高が大きく伸び、利益が増加しました。HDD用スピンドルモーター事業では、2005年7月以降の生産販売数量を一定に維持し原価低減に集中する方針への切り替えの影響により売上高は微増となりましたが、新たな生産効率向上の取り組みのもと、関連組織の連携強化と各製造工程において生産効率向上に努めた結果、下期の損失はゼロになるまで回復しました。情報モーター事業では製造拠点の再編を中心とする事業構造改革の成果により改善が進みました。

### 主要製品群、市場、市場での位置付け

製品群と主要製品	主要市場	当社の世界市場占有率(注)
<b>回転機器</b>		
HDD用スピンドルモーター	HDD	15%
情報モーター (ファンモーター、ステッピングモーター、 ブラシ付DCモーター、震動モーター)	PC・サーバー、情報通信機器、 家電、携帯電話、自動車、 産業機械	製品により 5~20%
<b>その他電子機器</b>		
PC用キーボード	PC	15%
液晶用LEDバックライト	携帯電話、デジタルカメラ デジタル携帯端末	10%
スピーカー	オーディオ機器、PC、自動車	
計測機器	産業機械	

注：市場占有率は数量ベース。当社で独自に入手した情報及び市場調査会社の情報を基に、当社が対象とする市場における占有率を推定。

### 主要製品

#### 回転機器

ハードディスクドライブ(HDD)用  
スピンドルモーター  
ファンモーター  
ハイブリッド型ステッピングモーター  
PMステッピングモーター  
ブラシ付DCモーター  
振動モーター  
VRレゾルバ

#### その他電子機器

パソコン(PC)用キーボード  
スピーカー

#### エレクトロデバイス製品

カラーホイール、光磁気ディスク  
ドライブ(MOD)、液晶用ライティング  
デバイス、フロッピーディスク  
ドライブ(FDD)用磁気ヘッド、バック  
ライトインバーター

#### 計測機器

ひずみゲージ、ロードセル

### 事業詳細

HDD用スピンドルモーター事業では、当期、組立と部品、並びに製造と営業の組織連携の強化をはかり、また、外注部品の内製化、部品歩留まり向上、組立工程での作業改善を中心とした原価低減を実施したことにより損益改善を実現しました。来期は、さらなる原価低減により利益体質の定着を目指すとともに、2.5インチFDBモーターの生産・販売の引き上げに注力します。新製品開発も引き続き進めています。

情報モーター事業では、事業構造の見直しを実施しています。製造拠点の統廃合、外注活用の見直し、製造の効率改善を柱とした生産体制の整備によりコストの引き下げをはかっています。また、受注内容の精査、新製品開発の効率化により製品構成の改善も実施し、来期中の利益化を目指しています。

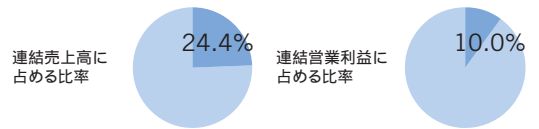
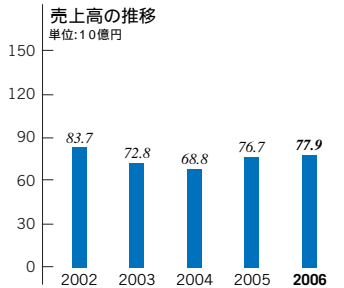
キーボード事業では、高付加価値モデルに事業資源を集中する体制への転換を当期末に決定しました。来期末までに当社の技術力と製造力を活用できる体制を構築し、収益の改善を強力に進めます。製造、営業及び技術の組織再編、設備の除却などにより固定費を削減するのに伴い、当期は事業構造改革損失3,475百万円をその他費用として計上しました。

光デバイス関連事業では、2005年10月に発表した高輝度・超薄型LEDバックライトの拡販をさらに推進します。より高精細な液晶性能が求められるなか、ワンセグ対応携帯電話端末での採用件数はトップとなっています。車載向け中型LEDバックライトの積極的な受注活動も展開しています。また、液晶TV用インバーターの売上を拡大し、低価格対応新製品の製品化を目指しています。

所在地別業績

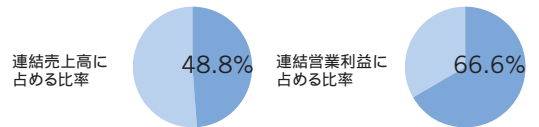
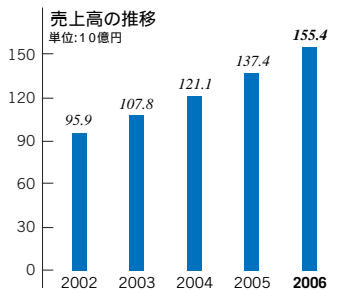
日本

日本地域は、売上高77,856百万円と、前期に比べ1,196百万円(1.6%)の増収となりましたが、営業利益は、1,922百万円と830百万円(30.2%)の減益となりました。



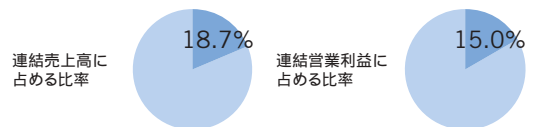
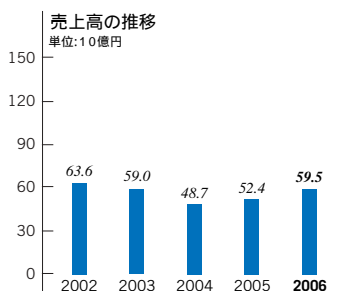
アジア(日本を除く)

アジア地域は、旺盛な投資等により高成長を続けている中華圏を含み、多くの日本、欧米等のメーカーの生産拠点として重要な地域です。売上は、情報通信機器関連業界の需要拡大や堅調な家電業界の需要に支えられ、中華圏を中心に堅調に推移しました。利益面では、ピボットアッセンブリー等のメカニカルパーツの値上げ及びコスト削減、HDD用スピンドルモーターのコスト削減対策等により収益改善効果が表れてきています。この結果、売上高は155,423百万円と前期に比べ17,999百万円(13.1%)の増収となり、営業利益は12,843百万円と6,973百万円(118.8%)の増益となりました。



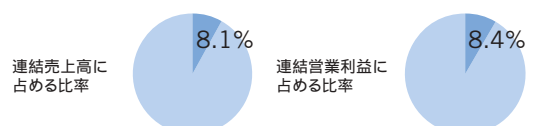
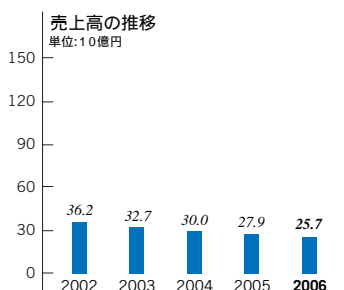
北米・南米

北米地域は、情報通信機器関連顧客のアジアへの生産移管が進んだものの、キーボードその他の電子機器部品は堅調に推移しました。また、米国生産のボールベアリング及び航空機関連業界等向けのロッドエンドベアリングは、受注・販売共に好調に推移しました。この結果、売上高は59,468百万円と前期に比べ7,078百万円(13.5%)の増収となりましたが、営業利益は2,888百万円と一部製品の輸入仕入価格変更もあり1,622百万円(36.0%)の減益となりました。



欧州

欧州地域は、緩やかな経済成長のなかで、ボールベアリング及びロッドエンドベアリング等が堅調に推移しましたが、米国系顧客向けキーボードビジネスを北米地域へ移管したため、売上高は25,699百万円と、前期に比べ2,249百万円(8.0%)の減収となりましたが、営業利益は1,616百万円と、665百万円(70.0%)の増益となりました。



(注)売上高：外部顧客に対する売上高